

さまざまな生活課題を抱える 困窮者を支える多様な支援

特定非営利活動法人やまなしライフサポート

路上生活者や生活が困窮している人たちを支援するために、週1回の定期的な炊き出しを中心に、就労支援、健康相談、生活相談などにつなげている団体がある。その活動は、ふれあいサロン、緊急一時宿泊所の運営にまで及んでいる。ボランティアから始まった取り組みは、ますます広がっている。



毎年クリスマス時期に開催される年末交流会は、ステージでの催しも盛りだくさんだ

● 毎週開催される炊き出し活動

JR甲府駅^{まがらび}から徒歩10分ほどの所にある甲府カトリック教会の講堂では、毎週木曜日に、4〜10月は16時30分から、11〜3月は16時から炊き出し活動が実施されている。食事の準備を担当するのは、10〜15人ほどのボランティアスタッフたちだ。やまなしライフサポート（以下、ライフサポート）の委員を中心として、教会の関係者、さらには市内の大学生、中高生、PTAの人たちも加わっている。

メニューは、親子丼、カレーライス、唐揚げ丼、ホワイトシチュー、牛丼などが中心であり、湯豆腐（夏は冷ややつこ）、みそ汁、漬物がつき、サラダやひじきの煮物なども用意されていて、家庭的で栄養バランスのとれた内容となっている。

「知り合いに勧められてやって来ましたが、友達や話し相手が増えてよかったです。好き嫌いがなかったので、いつもおいしくいただいています。おかげで体重が増えました」（Aさん）

「ここに来るのはみんなの顔を見るのが楽しみです」（Bさん）

が楽しみだからです。食事内容は最高でいつもおいしくいただいています。私の命は大げさでなく、この食事につながっています」（Bさん）

「10年前に炊き出し活動が始まった頃は、庭のテントで食べていました。多い時は50人ぐらいました。現在では炊き出しの準備や運営のボランティアをするようになっていきます」（Cさん）

● 炊き出しサポートを始めた理由

「このような炊き出しが始まったのは、2008（平成20）年のリーマンショック後のことだった。当時、派遣労働者切りが常態化したため、各地に失業者や路上生活者があふれていた。甲府市内も例外ではなかった。駅前ロータリー、公園、橋の下には数十人の路上生活者が暮らしていたという。」

第1回の炊き出しは2008年12月30日に開催された。2010（平成22）年1月からは毎週木曜日の定期的な炊き出しが始まり、中山さんはこの時から運営に参加している。2018（平成30）年で500回を数える。2009（平成21）年12月27日には、第1回の年末交流食事を開催した。告知チラシも作成し、新聞、テレビ等でも報道されたことからボランティアは80人、参加者は50人に達した。この年末交流食事は2010年から2018年まで毎年行われ、2018年で10回となる。

● 健康、住宅、就労の相談に積極的に関わる

「私たちの活動は、たくさんの方の皆さんの協力によって成り立っています。食材やお土産のお菓子・飲み物を提供して下さる「フードバンク山梨」さん、毎回使用する180個もの食器を貸してくださる「スペースふう」さん、2014（平成26）年までは毎回9キロのお米を「甲府・食事サービスをすすめる会」さんに炊いてもらっていました。個人の農家さんからも大量のお米や野菜が届きます。いつも開催日前には、事務所には寄付された食材が山のように積まれています」と、中山さんはうれしそうに笑う。

炊き出し会場には、「困りごと相談」「看護師による健康相談」「就労相談」というコーナーも設けられている。おいしい食事をして参加者たちとの話も弾み、心が穏やかになったところで将来のことを考えてもらうのがねらいだ。炊き出しへの参加がきっかけで、新しい人生を踏



炊き出しの準備には、いつもたくさんの学生ボランティアが集まる

● 誰もが「健康で文化的な最低限度の生活」
を営める社会をつくりたい

特定非営利活動法人やまなしライフサポート
理事長 中山 八十司さん

第1回の年末交流会にはボランティアスタッフとして参加した中山さん。以後、定期開催されるようになった炊き出しに毎回参加するだけでなく、市内数か所の公園や橋の下に住む路上生活者に弁当を配りながら傾聴活動をするなど、ボランティアグループの中心メンバーとして活躍するようになった。2011年にやまなしライフサポートが特定非営利活動法人化されてからは、理事長としてますます活躍の場を広げている。

中山さんが課題にあげているのが、最近の生活困窮者の多様化と若年化だ。触法者、精神障害や発達障害のある人、ひきこもり、虐待被害者など、複雑な理由が絡み合っているため、専門家が伴走支援しないと解決できない事例が増えている。時間をかけた交流による人間関係の構築こそが、彼らの支援には欠かせない。「路上生活者との対話で培ってきた傾聴技術を、多様な生活困窮者支援にも活かしていきたいです」と中山さんは語っている。



生活困窮者支援のあり方を語る中山さん

特定非営利活動法人やまなしライフサポート

所在地 山梨県甲府市小瀬町 654
山梨カトリック福祉センター
電話 055-241-2545
Eメール yls@mx6.nns.ne.jp
ホームページ http://yls.or.jp/
業務内容 炊き出し活動、見守りパトロール、ふれあいサロンの運営、緊急一時宿泊所ライフ荘の運営

炊き出しから始まった私たちの支援活動も、時代とともに少しずつ内容が変化してきました。ライフ荘を利用する人たちの年齢層をみると、痛切に感じます。今では半分以上が、20〜40代のいわゆる稼働年齢層の人たちなのです。これは異常事態だと私は思います。家族との絆が薄れ、仕事を失って住む場所もなくなった

若者たちは、路上ではなくて漫画喫茶などに逃げ込み、ぎりぎりまで耐えているのです」
現代社会における生活困窮者の問題は、さらに多様化している。若い頃から何十年も自宅にひきこもり、高齢となった親と同居している人(8050問題)、発達障害や精神障害があるために社会から隔

絶されている人など、表に出てこないだけで想像以上に存在しているのだ。
支援するためにまず重要なのは、地域の中で孤立する人たちを見つけることである。これからもライフサポートではさまざまな活動を続けながら、困っている人たちの立場に立って、その社会復帰をサポートしていく。

み出した人はこれまでに教え切れないほどだと中山さんは言う。
「参加者のなかには、持病があるのにお金がないから病院に行けないとか、年金をもらえる資格があるのに住民票がないから手続きができないという人が多くいます。相談さえしてくれれば、さまざまな方法で専門家が支援します。病院や役所、年金事務所、ハローワークなどへの付き添い支援によって、多くの人を公的セーフティネットにつなげてきました。ここ数年だけでも、生活保護受給98人、

就業支援74人、年金受給7人(2013(平成25)〜2017(平成29)年)の支援実績があります」
炊き出し会場に集まってくれた人々と交流していくうちに、中山さんのもとには「あの公園に、足を悪くして炊き出しに来られない人がいる」といった情報も集まってくるようになった。そこで、会場で提供した食事を弁当にし、配達することを思いついた。中山さんがひとり始めたこの活動は、路上生活者たちの見守りパトロールとして、今では大勢の



橋の下に住む路上生活者に弁当を配って、見守りを続けている



ふれあいサロンにおける面談。利用者の希望を詳しく聞く

ボランティアたちがライフサポートのスタッフとともにやっている。
社会情勢の変化によって、最近路上生活者たちの数は減ったものの、今でも橋の下にふたりが暮らしているのだという。彼らを定期的に見守り続け、ひとりでも多くの人が社会復帰できることを中山さんたちは願っている。

● 緊急一時避難施設が現在の活動のメインに

ライフサポートは2013年より、甲府市、山梨市、笛吹市、中央市、都留市から一時生活支援事業を受託し、緊急一時宿泊施設ライフ荘を運営している。住まいを失った人に衣食住を無料で提供し(2週間を限度とする)、その間に生活保護申請、就業支援、新住居確保、通院、法テラスへの同行などを行うことにより、自立への道を探ろうとするものだ。2017年度だけでも64人が延べ648泊する利用実績があり、最近のライフサポートの中心の事業になりつつあるのだと中山さんは言う。「路上生活者への